

「BHQチャレンジ」終了のお知らせ

高齢化・情報化が進む現代社会において、私たち生活者は日々、認知機能の低下やストレスといった様々な脳と心の問題にさらされています。

内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)では、生活者個人が日頃からそうした脳と心に起因する問題を予防し、精神的にも健康で豊かな生活を送ることができる新たなソリューション提供を目指し、山川義徳プログラム・マネージャーの下、ImPACTプログラム「脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現」を推進しています。

本プログラムの一環として、脳の状態の改善に効果が期待される様々なアイデア(既に市場に流通している商品やサービス)を民間企業から広く募集し、それら商品やサービスと脳の状態との関係を解明する共同研究「BHQ チャレンジ」に取り組んで参りましたが、昨年1月、高カカオチョコレートを対象とした(株)明治との本格的な共同研究の開始に向けた記者発表を切っ掛けとして、予備的な研究の段階にあった BHQ チャレンジ等の内容を広く公表したことに対して、批判意見が寄せられておりました。

こうした状況を受け、内閣府ImPACT有識者会議の決定により、批判を頂いた点等をより専門的な視点から検証し、プログラムの改善事項等を洗い出すための外部専門家によるヒアリングが実施されました。

外部専門家の方々によるヒアリングでは、実験方法やエビデンスの取得に関することや研究成果の発表方法やPRに関することに対して様々な意見や助言を頂き、とりわけ、BHQが脳の状態を継続的に測定・管理するための指標として有用であり今後より一層のエビデンスの蓄積に努めるべきであるとの評価を頂く一方で、BHQ に関する共同研究パートナーを探す BHQ チャレンジにおいて得られた結果(予備的な研究結果)を公表することについては慎重であるべき等の御指摘をいただきました。

昨年1月の(株)明治との共同記者発表は、本プログラムの目指す新たなソリューションの提供に向けて、脳科学研究の分野に多くの民間企業に参加していただけるよう、その第1号として(株)明治と本格的な共同研究を開始する旨を発表する場でありましたが、結果的に発表内容等に関して様々な批判を受けることとなったことは誠に残念であり、当時、発表資料のチェック等をより入念に行うべきできであったと考えております。

今後は、発表資料のチェック等に当たり、内閣府、JST、プログラム・マネージャー及

び受託研究機関の役割分担や責任を明確化し、チェック体制を強化するとともに、必要に応じ外部の専門家の点検も受けることとしたいと思います。

また、BHQ については、脳の健康管理指標としての有用性を立証するためのエビデンスの蓄積・強化を最優先に取り組むこととし、加齢や様々な身体的な健康指標等との関係性の解明にも取り組むこととします。

一方、市場に流通する商品やサービスを対象とし、これまでコンテスト型で実施してきた「BHQチャレンジ」については中止することとします。また、(株)明治との本格共同研究への移行についても一旦中止し、昨年 1 月に発表した研究成果について、改めて実験方法等を見直した上で、追加実験を行い、その結果を査読を受ける科学論文に投稿する形で改めて御報告したいと考えております。

これまで「BHQチャレンジ」に御協力いただいた企業や関係者の皆様に、多大なご心配・ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。

平成30年5月

ImPACT プログラム・マネージャー

山 川 義 徳

国立研究開発法人科学技術振興機構 ImPACT室長

小 林 正

内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)付 参事官

鈴 木 富 男